

# 高木先生・手塚先生の推薦書

## 入門書

### 1「食べる機能の発達をうながす子育て」 診断と治療社 2003年

編著 田角勝(たつのまさる)、河原仁志(かわはらひとし)

※障害を持つ子ども達の摂食指導に豊富な経験のある二人の小児科医による本です。簡単に読めて、大事なポイントがわかります。経管栄養依存症や筋ジスについても触れられています。

### 2「食べる力はどう育つか～乳幼児の摂食機能の発達と課題～」大月書店 2002年

井上美津子(歯科医師)

※健常児から障害児まで、幅広く小児の摂食と口腔を見ている著書による摂食機能の発達が書かれています。

### 3「摂食育コミュニケーション」 オフィスsakuta 2009年

中島千夏子(摂食カウンセラー)

※筆者は養護学校教員としての長い摂食指導の経験をお持ちの方です。現在は高齢者の摂食嚥下障害を含めた啓蒙活動や人材育成、デイサービスでの日々の実践活動と幅広い活動をされています。環境の整え方、基本的なリハビリなどについてのDVDがついています。

### 4「乳幼児の摂食指導 ～お母さんの疑問に答える」医歯薬出版 2000年

向井美恵(むかい よしはる)編著

※小児の摂食嚥下研究のパイオニアのお一人、小児歯科が専門の先生の本です。健常児の摂食機能発達がたくさんの写真と一緒に説明されています

## 専門書

### 5「食べる機能の障害 その考え方とリハビリテーション」 医歯薬出版 1987年

金子芳洋 編 金子芳洋、向井美恵、尾本和彦 著

※小児の摂食嚥下研究を始めた金子先生が編集した古典的名著です。評価用紙、評価方法など、巻末も充実しています。

### 6「障害児の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション その基礎と実践」

医歯薬出版 2005年 金子芳洋監修 尾本和彦 編

※1980年代の基礎研究以降、様々な経験を蓄積した著者らによる丁寧な解説と実践のための本です。お勧めします。

### 7「小児の摂食・嚥下リハビリテーション」医歯薬出版 2006年

田角 勝、向井美恵 編著

※6以降の経験・研究をとりいれた本です。図解やイラストが豊富です。